

第 45 回

鳥取県西部歯科臨床懇談会

と き 令和 7 年 12 月 21 日 (日)
午前 9 時 25 分 ~ 午後 2 時 30 分

ところ 米子市両三柳 104-1
鳥取県西部歯科医師会館
☎ 0859-33-3864

主催 鳥取県西部歯科医師会学術委員会

第45回鳥取県西部歯科臨床懇談会開催にあたり

鳥取県西部歯科医師会

会 長 足 立 融

会員並びにスタッフの研修、研鑽、文化的趣味などの発表の場として西部歯科臨床懇談会が回を重ね、本年度、第45回を迎えることとなりました。これまで会員、スタッフの皆様の参加によって継続できましたこと感謝申し上げます。

さて、活力ある地域、健康づくり、健康長寿、幸福長寿の実現に会として寄与すべく、会長就任時に以下の3つの目標を掲げさせていただきました（この目標はことあるごとに示させていただきます）。

- ①子供の歯を守る、口腔機能の発達を促す、歯科医院に通院できない子供たちまで目を届かせる⇒妊産婦健診より始まる現行の種々歯科健診の充実、う蝕予防と口腔機能にかかる園・学校歯科保健との連携、データ把握による改善目標設定。
- ②成人期以降において増加の一途をたどる歯周疾患への対応⇒行政、医歯薬連携により歯周病検診受診率を上げ、歯周疾患の早期予防と地域歯科医療の対応力向上。
- ③受診率の高まる高齢期において、通院時から口腔機能の維持、向上、通院できなくなった後も寄り添い続けられる歯科医療体制を強化⇒フレイル対策へのコミット、歯科訪問診療の充実。

これらの目標の中でも子供の口腔機能は最優先課題であります。各種検診のなかでチェック項目がなく、時期を逸すると成長後にも大きく影響を与えます。乳幼児期での検診で啓蒙を行い、早期介入と園・学校歯科保健、歯科医院での対応ができる体制づくりが必要です。

今回の特別講演は、そのキックオフイベントとなるべく日本小児歯科学会副理事長、千葉歯科医院院長 浜野 美幸先生を招聘いたしました。この後、引き続き予防歯科運営委員会の方におきまして、検診時啓蒙リーフレットを作成し市町村で活用いただく予定です。

また、毎年お忙しいなか、鳥取大学医学部歯科口腔外科の先生方には本会会員との交流連携の場として本懇談会でご発表いただいております。今年度は原田祐貴先生、石見香穂歯科衛生士様よりご発表頂きます。

そして本会副会長の八尾正己先生の御著書が出版されました。八尾先生の歴史の話はとにかく面白い、興味をそそられます。短い時間ではありますが、「伯耆人のプライド」とくとお聞きください。

是非、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

第45回 鳥取県西部歯科臨床懇談会日程

9:00 ～

受 付 開 始

9:25 ～

会 長 挨 拶

9:30 ～ 10:30

一 般 口 演

座 長 永 瀬 志 保

- 1) 口腔ケアにより食事摂取量の増加を図った
スティーブンス・ジョンソン症候群の一例

- 1) 鳥取大学医学部附属病院 診療支援技術部 歯科口腔外科技術領域
2) 鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科

○石 見 香 穂^{1,2)}、 田 部 有 子^{1,2)}、 藤 井 信 行²⁾

- 2) 当科における深頸部膿瘍症例の検討

鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面外科学分野

○原田 祐貴	原田 勇聖	天津 康佑	酒井 皓介
新宮 崇之	奈良井 節	藤井 信行	田村 隆行
土井理恵子	小谷 勇		

- 3) 『刀匠 伯耆安綱と童子切』

やお歯科クリニック 八 尾 正 己

10:35 ～ 12:00

特 別 講 演

座 長 足 本 敦

小児の口腔機能管理
「口腔機能発達不全症」の対応

東京都大田区開業 千葉歯科医院 院長 浜 野 美 幸

12:00 ～ 13:00

昼休憩・展示見学

13:00 ～ 14:30

特 別 講 演

座 長 足 本 敦

小児の口腔機能管理
「口腔機能発達不全症」の対応

東京都大田区開業 千葉歯科医院 院長 浜 野 美 幸

14:30 ～

閉会の挨拶

1) 口腔ケアにより食事摂取量の増加を図った スティーブンス・ジョンソン症候群の一例

- 1) 鳥取大学医学部附属病院 診療支援技術部 歯科口腔外科技術領域
2) 鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科

○石見 香穂^{1,2)} 田部 有子^{1,2)} 藤井 信行²⁾

【緒言】

スティーブンス・ジョンソン症候群（以下、SJS）は高熱や全身倦怠感を伴い、口腔粘膜、眼、外陰部などを含む全身に紅斑、びらん、水疱が多発し、重篤な粘膜疹を認める疾患である。今回われわれは、SJSにより口腔粘膜にびらんが多発し、疼痛を訴えている患者に対して、口腔ケア介入することで疼痛が緩和し、食事摂取量が増加した症例を経験したので報告する。

【症例の概要】

患者：60代男性。既往歴：糖尿病。症状経過：顔面と背部の紅斑出現と口腔内の腫脹を自覚し、当院皮膚科を受診した。SJS診断下、治療が開始されたが、その後口内痛が増悪し、入院4日後に当科紹介となった。当科初診時、口腔粘膜にはびらんやカンジダを疑う白苔が多発しており、歯牙欠損による咬合不全を認めた。口内痛により食事摂取量は主食5割、副食4割に低下しており、口腔ケアが困難なため、口腔衛生状態は不良であった。症例に対し、疼痛コントロールやプラークコントロールなどの口腔管理を行った。

【結果】

口腔ケア介入により疼痛の緩和、口腔衛生状態の改善が得られ、入院5日目には主食、副食ともに食事摂取量は10割となった。SJSの治療において、口腔ケア介入が一助となることが示唆された。

2) 当科における深頸部膿瘍症例の検討

鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面外科学分

○原田 祐貴	原田 勇聖	天津 康佑	酒井 皓介
新宮 崇之	奈良井 節	藤井 信行	田村 隆行
土井理恵子	小谷 勇		

【緒言】深頸部膿瘍は扁桃周囲膿瘍や菌性感染症などに起因し、頸部の疎性結合組織の間隙に膿瘍を形成する疾患である。気道狭窄、縦隔炎、敗血症、まれに静脈血栓症や頸動脈破裂などの合併症を来し、致命的な経過をとることもある。そのためその臨床像を的確に把握することは適切かつ迅速な診療を行う上で必要なことと言える。今回我々は、当科において2000年～2025年までの入院加療を行った深頸部膿瘍症例について検討し、若干の文献的考察を加え、その結果を報告する。

【対象および方法】2000年から現在までに当科を受診し、全身麻酔下に深頸部膿瘍切開排膿術を施行した23例について、記録から調査・検討した。

【結果】平均年齢は68.04歳、男性13例、女性10例であった。23例中気管切開を行ったのは13例。当科受診から手術までは平均0.6日であった。膿瘍が存在した隙（最深部）としては側咽頭隙16例、翼突下顎隙2例、顎下隙2例、頸部血管鞘隙1例、後咽頭隙1例、頬骨側頭隙1例であった。切開した隙は顎下隙が21例（内3例はオトガイ下隙、1例は頬骨側頭隙を追加で切開）、オトガイ下隙が1例、頬骨側頭隙が1例であった。切開排膿後の白血球正常化までの日数は平均6.6日であった。

【結論】当科では深頸部膿瘍患者は全例が早期の全身麻酔下での切開排膿で治療に至り致命的な経過を辿ることなく退院できている。気管切開も症例に応じで選択しながら治療方針を決定することが肝要と考えられる。

3) 『刀匠 伯耆安綱と童子切』

やお歯科クリニック

八尾 正己

このたび株式会社郁朋社より、拙著『刀匠 伯耆安綱と童子切』を上梓する運びとなりました。

伯耆安綱は、天下五剣の一つに数えられる国宝「童子切」の作刀者と伝えられる刀工です。最古にして最高の日本刀と称されるこの名刀を鍛えながらも、彼の出自や経歴については、伯耆国会見郡に居住していたこと以外ほとんど明らかにされていません。

「童子切」が語るものは、千年前のこの西伯耆の地に、本邦はもとより世界的にも最高水準の技術が存在し、それを支えた名もなき人々が確かに居たという事実です。私はその伯耆安綱の存在に魅了され、「歴史文学振興会」主催の「第25回 歴史浪漫文学賞」へ歴史小説を投稿いたしました。幸いにも、一次・二次・三次、そして最終選考を通過し、大賞候補にノミネートされました。結果として大賞は逃しましたが、その後、郁朋社より出版のお誘いを賜り、このたびの刊行に至った次第です。

学生時代を過ごした九州には、郷土の偉人を語る多くの友人がいました。しかし、鳥取県の偉人について何も語れない自分に強いもどかしさを覚えたことが、歴史探訪の出発点となりました。その歩みの中で、西伯耆には誇るべき歴史と文化が数多く存在することを知りました。

日本刀の源流とも言える「童子切」を鍛えた安綱の名を、後世に確かな記録として遺したいというその一念をもって筆を執りました。

今日の鳥取県は、人口も全国最少で、経済的にも決して豊かな地域とは言えません。しかし、この地に生きた先人たちは、我が国に「童子切」という至宝と、伯耆人としての誇りを遺してくれました。

本書の舞台となった大山は、かつて火神岳、大神山とも称された霊峰です。その雄姿を仰ぎ見るたび、伯耆安綱の姿と、彼を支えた名もなき人々、あるいは“鬼”として歴史の闇に消えた者たちの静かな声が、私の心に響いて来るような気がしてなりません。

特別講演

小児の口腔機能管理 「口腔機能発達不全症」の対応

東京都大田区開業 千葉歯科医院 院長
浜 野 美 幸

2018年に「口腔機能発達不全症」の新病名ができ、公的保険で対応ができるようになりました。具体的には、「食べるのが遅い」、「咬まずに丸のみしている」などの食事の問題、「指しゃぶり」などの口腔習癖、「口をあけたままにしている」「舌足らずの赤ちゃん言葉」などの呼吸や構音障害の問題があり子育ての悩みにもなっています。対応としては、形態・機能・心理の3つの側面から捉え、生活支援や運動機能訓練を行いながら継続的に口腔機能管理を行う必要がありますが、自覚症状に乏しいため、医療者からの気づきが必要です。気付く機会は診察だけでなく、乳幼児歯科健康診査や学校歯科健康診断もあります。今年初めに歯科の参画が決まりました5歳児健康診査についても触れたいと思います。

本疾患の対応は、歯科衛生士の活躍が大変期待されています。ぜひ、積極的に子どもの口腔機能の育成に関わってください。子どもたちのリアクションに手ごたえを感じ、やりがいに繋がると思います。

さらに、子どもたちの成育環境の現況から考えますと、園や学校、地域などで歯科保健教育を他専門職種と連携して行い、子どもたちの成育環境を整えることも重要です。ぜひ本疾患の知識とスキルを身につけて、皆様から取り組みを拡げていただきたいと思います。

浜野 美幸 (はまの みゆき)

【略歴・現職】

1986年 東京歯科大学卒業

1990年 東京歯科大学大学院（小児歯科）修了
病院、歯科医院勤務を経て

2003年 千葉歯科医院 院長 現在に至る

現職：

日本歯科専門医機構認定 小児歯科専門医指導医

東京歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師

昭和大学口腔衛生学講座 兼任講師

日本小児歯科学会 常務理事（副理事長、小児保健）

協 賛

(株) 玉 井 歯 科 商 会

(有) 桜 井 歯 科 商 会

(有) 中 尾 歯 科 商 会